

# 開催趣旨

目を閉じ、あなたのことを思う。東日本大震災から一年半。いくつもの季節は移ろうが、悲しみが癒えることはない。

福島原発事故は、経済成長を追い求める市場原理の巨大なシステムが、決して私たちを幸福にしないことを示した。人間にとって本当の豊かさ、大切なことは何か、真の復興とは何なのかを考えなくてはならない。

震災前の私たちの社会は失業と貧困、人口の流出と過疎化、無縁社会の広がり、に喘いでいた。東北の復興は、こうした震災前の社会に戻すことではない。最も破壊され、喪失と悲しみの中におかれた被災地だからこそ見えてくる真実があり、この社会を変える力が生まれている。

生かされた命。深くて大きな託された何ものかのために、辛くても目を開け、自らの足で立ち、次世代に希望をつなぐ尊厳ある仕事と、暮らしと、地域を自らの手で創ろうと立ちあがる人々がいる。

手を伸ばせば触れられるところに、自然の恵みと人の絆の豊かさを感じられる「小さな共生社会」を築く。そんな新しい社会創造への胎動がきこえる。

東北に新しい日本を。こうした無数の営みをあますところなく交流し、学び合い、市民の協同と連帯の力で本当の復興の道筋をつける全国協同集会 in 東北へ。

あなたの参加を、お待ちしております。



盛岡駅よりタクシー約8分・徒歩約20分



盛岡駅よりタクシー約10分・徒歩約25分

## 実施主体：2012 全国集会 in 東北実行委員会

[全国] 日本労働者協同組合ワーカーズコープ連合会、協同総合研究所、労協センター事業団、特定非営利活動法人ワーカーズコープ、日本高齢者生活協同組合連合会、一般社団法人日本社会連帯機構 [岩手] 岩手県農業協同組合中央会、岩手県生活協同組合連合会、社団法人岩手県労働者福祉協議会、岩手県高齢者福祉生活協同組合、岩手大学、岩手県立大学、社会福祉法人若竹会、特定非営利活動法人遠野まごころネット、奥山俊広 [宮城] 石巻地方中高年雇用福祉事業団、ワーカーズコープピホロ、東北学院大学経済学部、東北大学、社会福祉法人はらから福祉会、NPO 法人ピースジャム、NPO 法人グループゆう、たじりエコビジタブル、中嶋信

## 後援自治体

岩手県 / 岩手県、八幡平市、葛巻町、岩手町、滝沢村、紫波町、矢巾町、金ケ崎町、雫石町、西和賀町、二戸市、遠野市、宮古市、岩泉町、田野畑村、住田町、大船渡市、陸前高田市、盛岡市、久慈市、野田村 青森県 / 青森県、階上町 秋田県 / 秋田県、仙北市、大仙市 福島県 / 相馬市、飯館村 山形県 / 山形県、山形市、長井市、酒田市 宮城県 / 宮城県、仙台市、石巻市、栗原市、登米市、南三陸町、気仙沼市

## 後援団体

河北新報社、石巻日日新聞社、三陸河北新報社、岩手日報社、岩手大学

いま、「協同」が創る  
2012全国集会 in 東北



# 東北が拓く ～きづき合おう！ 新しい社会～

開催日・会場・時間

2012  
10/27日

全体会 / 岩手県公会堂 大ホール  
PM.12:40～17:45

交流会 / 岩手県民会館レストラン「くらぼっこ」  
PM.18:15～

28日

分科会 / 岩手大学 AM.10:00～15:00

被災地ツアー / [大槌コース・大船渡、陸前高田コース]  
AM.08:00～16:30

参加費 2,000円 [学生：1,000円・高校生以下：無料] (資料代) 当日、受付にてお支払い下さい。

記念講演 農の力と、ともに生きる社会の創造



星 寛治氏  
たかはた共生塾・有機自然農法家(山形県高島町)

パネルディスカッション 「次世代に希望をつなぐ東北被災地からの挑戦」



山内 明美氏  
宮城大学地域連携センター  
特任調査研究員



渡邊 とみ子氏  
かーちゃんのカ・プロジェクト  
協議会代表



村上 力男氏  
特定非営利活動法人  
気仙沼復興商店街理事長



阿部 敬一氏  
一般社団法人  
おらが大槌夢広場代表理事



田中 羊子氏  
ワーカーズコープ  
東北復興本部本部長

お問い合わせ  
2012 全国集会 in 東北実行委員会 ワーカーズコープ・センター事業団 盛岡中央事業所  
岩手県盛岡市神明町3-5 鈴木ビル2F TEL 080-6014-2362 FAX 019-629-2036  
<http://kyodo2012-tohoku.com/>

## FAX 申込書 申込締め切り ▶ 2012年10月19日(金)

申込に関するお問い合わせ先 … ワーカーズコープ・センター事業団 盛岡中央事業所  
岩手県盛岡市神明町3-5 鈴木ビル2F TEL.080-6014-2362 FAX.019-629-2036  
Mail:tohoku-kyodo@roukyou.gr.jp

参加申込書	ふりがな		性別	男・女	参加日	<input type="checkbox"/> 10月27日(土)	<input type="checkbox"/> 10月28日(日)
	氏名						
	所属		参加希望分科会	第一希望( )セッション	第二希望( )セッション		
	住所		交流会(会費別途3,000円)	<input type="checkbox"/> 参加	<input type="checkbox"/> 不参加		
電話		FAX		メール			



12時40分 | オープニングイベント 劇団わらび座

13:00 開会あいさつ 永戸 祐三氏 日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会理事長  
13:10 連帯あいさつ 岩手県知事 達増 拓也氏

13時30分 | 記念講演 農の力と、ともに生きる社会の創造

星 寛 治 氏 たかはた共生塾・有機自然農法家(山形県高畠町)

東日本大震災と原発禍に揺れる日本の再生は、共生の理念によるしかない。自然の持つ本来の力で、安全かつ高品質な農産物を作る有機農業。しかし同じ自然が多くの人命と生活を奪った。そこに追い打ちをかけた原発事故の影響は高畠町にも及んだ。「原発と有機農業は共存できない。」

農業、教育、福祉などあらゆる分野で地域の主体性が発揮できる「小さな共生社会」を目指すべきだ。グローバルイゼーションは歴史の必然ではなく、私たち自身の力で変えられる。そう信じている。

「いま、「協同」が創る2012全国集会在東北」が、本県において盛大に開催されますことをお喜び申し上げますとともに、全国各地から参加される皆様を心から歓迎いたします。



岩手県知事 達増拓也

昨年 3月11日に発生した東日本大震災津波から1年半が経ちました。これまで、全国の皆様からいただいた心温まる御支援に、厚く御礼申し上げます。

岩手県においては、本年を復興元年と位置づけ、震災からの復興に向けて県民一丸となって取り組んでおります。宮沢賢治は、「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という言葉を残しました。私たちも、被災された方々が再び幸せな生活を送ることができるように、犠牲になられた方々のふるさとへの思いをしっかりと受け継いで、「いのちを守り 海と大地とともに生きる ふるさと岩手・三陸の創造」に向かって進んでいきます。

被災地域の復興に向けた活動について学び合い、協同による可能性を全国に発信して2012全国集会在東北が成功することを祈念し、歓迎のことばといたします。

1 被災地発・市民主体のコミュニティ再生と新しいまちづくり

震災の破壊と喪失の中から、人間にとって本当の豊かさ、大切なことは何かを問い、子どもたちに希望をつなぐ生き方、仕事、地域を創り出そうと力を合わせ、立ち上がる人々がいる。自然と人の豊かな結びつきのある生活圏を市民の「協同」の力でどうつくるのか。被災地の新たな挑戦から学ぶ。

- パネラー 白澤良一 (NPO法人遠野まごころネット) 阿部敬一 (一般社団法人 おらが大槌夢広場) 梶原三雄 (ワーカーズコープ・ピホロ) 星寛治 (たかはた共生塾・有機自然農法家) コメンテーター 宮崎隆志 (北海道大学)

2 福島から命と暮らしを考える

地域の自然や資源を愛し、自然と共に生活と生業を行ってきた福島の人々。福島原発事故・放射能汚染・風評被害により、生活が一変してしまった。その現実とあきらめずに立ち上がる人々から学び、子どもたちが安心して暮らせる地域にするために、私たちはどう行動するべきか。国・県・自治体・市民の役割を問い、今すべきこと、未来に向けた行動方針を見出す。

- パネラー 渡邊とみ子 (かーちゃんのカ・プロジェクト協議会) 高橋永真 (NPO法人相馬はらがま朝市クラブ) 西方嘉奈子 (『福島の子もたちからの手紙』著者) 齊藤 登 (がんばろう福島、農業者等の会) 一條 暢 (ワーカーズコープ・南相馬地域福祉事業所) コメンテーター 塩谷弘康 (福島大学)

3 再生可能エネルギーと仕事おこし

福島原発事故により、エネルギー政策の大転換が求められている。原子力に依存したエネルギー生産から、地域の自然や地形、資源を活かした再生可能エネルギーの活用を、東北での取組み事例を踏まえて学び、新たな可能性を見出す。

- パネラー 武田豊樹 (株式会社 環境ルネッサンス) 富岡敏夫 (NPO法人グリーンシティ) 湯ノ木大亮 (ワーカーズコープ・大槌バイオマス事業所) 新沼暁之/泊みゆき (つながり・ぬくもりプロジェクト) コメンテーター 上原公子 (原発発をめざす首長会議事務局長元国立市長) 吉成信夫 (NPO法人 岩手子ども環境研究所(森と風のがつこ))

4 東北の大地に根ざす新しい生き方・働き方

自然の恩恵を受け、自然と共に生活をしてきた東北の人々。今、改めて自然と共に生き、地域資源を活かした仕事づくり、その誇りのもてる働き方の創造が始まっている。第1次産業分野での新たな産業づくり、協同で働く仕組みづくり、真に豊かな生活の有り様について模索していく。

- パネラー 上野孝雄 (林業海支援事業まほろば企業組合) 大内文雄 (企業組合 しらかノラの会) 阿部勝太 (漁業生産組合浜人) 鹿子島孝次 (ワーカーズコープ・大槌地域福祉事業所) コメンテーター 濱田武士 (東京海洋大学)

5 食と農を中心とした女性たちの仕事おこし・まちづくり

生活の基礎となるFEC(フード・エネルギー・ケア)を地域で自給していこうという価値観・生活の転換が生まれ、新しいニーズや新しい産業のモデルが生まれてきている。女性の起業を1つのテーマとして、地域における食を通じてコミュニティづくりの実践事例から学び、新しい仕事おこしの可能性と課題を共有し、FEC自給圏の創造に向かう道筋を探る。

- パネラー 高家章子 (森のそば屋) 山内登美子 (ひころレディーズ) 千田由美 (農家レストラン まだ来すた) 細川栄子 (あぐりちやや) 加藤みつえ/岡脇志織 (ワーカーズコープ多賀城地域福祉事業所) コメンテーター 朝岡 幸彦 (東京農工大学)

6 人間らしく働くための協同労働の実践

働く人びと、市民がみんなで出資し、責任を分かち合せて、人と地域に役立つ仕事をおこす協同労働の働き方へ被災地からの期待が広がっている。人間の復興と労働の価値を改めて問い、地域再生・まちづくりの課題と、協同性を大切に作る人間らしい働き方を重ね合わせて仕事をおこす協同労働の各地の実践から学ぶ。

- パネラー 伊藤和之/本田幹生 (社会福祉法人浦河べてるの家) 濱崎佐和 (ワーカーズコープ大野城地域福祉事業所) 高橋良子 (ワーカーズコープ鳩子地域福祉事業所 玉ちゃんの家) 千葉よし子/大槻美和 (ワーカーズコープ・登米地域福祉事業所) コメンテーター 大高研道 (聖学院大学)

7 子ども・若者会議 ～10年後の未来を描く～

復興が10年、20年の長い時間を要するなかで、その地域を担っていくのは子どもや若者たちである。こうした、次代を担う当事者たちが震災で何を感じ、どのような生き方とまちの将来を望み、復興の今と未来を描いていくかを議論したい。

- パネラー 小学生2名 中学生2名 高校生3名 コメンテーター 高橋正行 (宮城県高等学校障害児学校教職員組合)

8 コミュニティケアと高齢者・障害者の力をいかせる地域づくりへ

東日本大震災から1年4か月。被災地での暮らしは依然として厳しい状態が続いている。震災を乗り越え、その中でも先駆けて復興に踏み始めている地域における、これからの日本社会にとって必要な「モノ」とは何でしょうか? パネラーである当事者たちとのトークライブ・グループワークを中心に、さまざまな課題に応えるための地域づくり・福祉総合拠点づくりにむけてワイワイガヤガヤと議論します!

- パネラー 大場幸雄/及川真佑美 (ワーカーズコープピアサポートセンターそら) 杉山 裕信 (CILたすけっと自立生活センターin仙台市) 八木純子 (石巻ママサポーターズ) 岩手県 高齢者福祉生活協同組合 コメンテーター 後藤純 (東京大学 高齢社会総合研究機構)

9 地域で支える子育て、子育て、親育ち

震災によって多くの方の命が失われた。命とは何なのかという原点が問われている。特に、生まれてきた子どもや親が生きかされた命を大切に育み、地域で自立し、心豊かに暮らして為には何が必要か。そのためには、地域の人々とともに支え合う関係性をどのようにつくるかが求められているかを深め合う。

- パネラー 兼子佳恵 (NPO法人 石巻復興支援ネットワークやっす石巻) 佐藤賢 (NPO法人 ピースジャム) 阿部 正幸 (特定非営利活動法人NPOカタリ) 赤根真澄 (ワーカーズコープ三日町園だまり地域福祉事業所) コメンテーター 石川昌征 (フリースクールだいと代表) 山口祐二 (福岡こども短期大学)

10 地域密着型企業の再生と持続可能なまちづくり

地域密着型企業は、震災前からグローバル化の影響を大きく受けていた。しかし、震災後の復興にむけた中小企業の動きは、自分たちだけが商売を始めるのではなく、子どもの為、地域の為に居場所づくりや復興イベントを開催しながらともに歩む方向を目指している。人口流出が続く中で、持続可能なローカルな経済圏域をどう創り出していくのか、その可能性を見出す。

- パネラー 村上力男 (NPO法人 気仙沼復興商店街) 佐藤真 (株式会社環境流通システム) 横山照康 (長井市商工振興課企業振興室) 株式会社高砂長寿味噌本舗 コメンテーター 古川康造 (高松丸亀町商店街振興組合理事長)

11 東北の暮らしを支える地域文化

人々の心の拠り所はなんであるか。これまで長い間、培ってきた生活や地域が震災によって奪われてしまった。そうした中で、あらためて地域の人々は、集い、語り合い、踊り、お祭りを行うなかで、生きる力を取り戻してきている。東北で生活するうえでなくてはならないものとして受け継がれてきた多様な文化が、震災を受けてあらためて人が生きる力として必要なものとして浮き上がってきている。

- パネラー 菊池忠彦 (城山虎舞) 岡野茂雄/古舘王士 (大槌 STANDING STANDING) 小笠原晋 (遠野文化研究センター) 田村泰二 (八瀬森の学校) 大和田しずえ (たざわこ芸術村・わらび座) コメンテーター 大江正章 (コムONS代表)

12 社会的排除を超えて社会連帯へ

ともに暮らし、働き、生きる地域社会をどう創るのか。津波被害を受けた沿岸部では人口流出、高齢化、仕事場の創出、都市部では流入する人々の孤独や失業が顕在化している。障がい、失業、ホームレス、貧困問題が深刻化する中で、人々が繋がりがながらどのようにして新しいまちづくりに向かうのか。多様な人々が主体者として、ともに生きられる社会づくりに向けた実践報告を踏まえて議論する。

- パネラー 菅野拓 (一般社団法人パーソナルサポートセンター) 中山崇志 (NPO法人 まきばフリースクール) 眞壁大隆 (行持院) 加藤源広 (ワーカーズコープ 盛岡地域福祉事業所 若者サポートステーション) コメンテーター 福原宏幸 (大阪市立大学)

13 ああ東北へ・・・都市と農村をつないで

高度経済成長の時期に東北から東京へ多くの労働者が向かった。しかし、時代は本当の豊かさを求めて、新しい暮らしをつくり出す方へ向かっている。都市の暮らしが農村の犠牲の上に成立つような都市と農村の関係を根底から見直しながら、新しい地域循環のあり方、協同で結ばれた両者の関係性のあり方を模索する。

- パネラー 小林史磨 (株式会社 産直市場グリーンファーム) 奥山俊広 (有意能農園) 大越貴之 (銀座ミソバチプロジェクト) 熊谷元 (ワーカーズコープ・滝沢事業所) コメンテーター 島田圭一郎 (元農業新聞社長)

14 被災地ツアー 大槌町

大槌町では、「おらが大槌夢広場」、「ぐるっと大槌」、「吉里吉里国」などの市民事業が震災から立ち上がり、まちの復興に若い人々から大人まで力を合わせて向かっている。震災を経て、地域の人々は生かされた命を人々や地域のために貢献しよう思い、様々な活動を行っている。沿岸被災地の状況とそうした人々との出会いから真の復興への道筋とは何かを学び合う。

スケジュール(予定) 07:30 ー 集合 → 08:00 ー 出発 → ～ 現地視察 ～ 14:00 → 16:30 ー 到着 (新花巻駅)

被災地ツアーは、バス代金4,000円(昼食代含む)をご負担いただきます。当日、乗車前に集金いたします。

15 被災地ツアー 大船渡市・陸前高田市

大船渡市、陸前高田市、住田町の気仙地域の人々の復興の取り組みを訪ねる。大船渡市では、ワーカーズコープの仲間が豆腐づくり、産直、加工品づくりの事業に取り組んでいる。震災を経て生き方が変わり、故郷への思いを込めて、仕事おこしへ向かっている。こうした震災をへて協同労働での仕事おこしに立ち上がる仲間の思いにふれながら、三陸の豊かな幸を味わう。

スケジュール(予定) 07:30 ー 集合 → 08:00 ー 出発 → ～ 現地視察 ～ 14:00 → 16:30 ー 到着 (一関駅)

被災地ツアーは、バス代金4,000円(昼食代含む)をご負担いただきます。当日、乗車前に集金いたします。